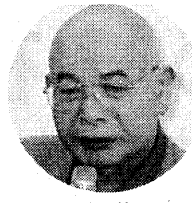


検討課題を本格議論

水安保機構 新登録のチームも

長川丹保憲仁北海道大学名誉教授、基本戦略の検討での実質的な議論に入った。



遠藤議長



中川元財務相



丹保委員長

水の安全保障戦略機構は17日、東京・文京区の中央大学後楽園キャンパスで第2回基本戦略委員会(委員

長川丹保憲仁北海道大学名誉教授、基本戦略の検討での実質的な議論に入った。同機構執行審議会議長の遠藤武彦元農水相が冒頭挨拶。「世界的にも水問題は安閑としていられない。その解決のため日本が世界に向けプレッスするには、間口広く奥行きのある戦略的概念を固めなければならぬ。そのために戦略機構を立ち上げたが、幸い22年度の(水関係の)予算はこれまでになく予算となりそつだ。われわれ政治家はそうした側面から努力していく」と述べた。また、中川昭一前財務大臣もかけつけ挨拶した。事務局が技術普及委員会・分野連携委員会や「チーム水・日本」の活動を報告した後、食料と水について

の話題提供として、2人の委員が講演。特別委員の生源寺真一(東京大学大学院教授・農学生命科学研究科長)は世界の食料事情について、食料安全保障の観点から説明した。発展途上国、先進工業国での問題と別に、水と同様に国内の食料安全保障にも配慮が必要とされた。

執行審議会委員の中村良太国際灌漑排水委員会名誉副会長は、「ローテクの中間のハイテク」として、農業用水の管理技術について話した。水路が開水路である、需要が不確定に変動するなど農業用水の特徴を挙げ、水利組合の発達など日本での対処を説明した。講演の後、委員らは食糧自給率の向上や水利権の変更などに

関し発言。「農業用水抜きに水は語れない」と議論した。

続いて第一回基本戦略委員会であがっていた検討課題、21世紀文明を見据えた水システムに求められること

と一を巡って討論した。「19世紀にできた水道システムが22世紀にも通用するとは限らない。高度浄水が非効率かどうかというところも議論の突破口として考えなければならぬ」(丹保委員長)。「国内の水問題と国際貢献の問題が混在している。また、50年程度のスパンと100年以上の長期のスパンの視点でも議論が混在している。これら

は有機的につながっていくが、ていねいに分解し議論を整理しなければ」(竹村公太郎委員)。「水関係の情報共有化されていない。水の情報管理で世界的なビジネスに乗り出さなければならぬ」(吉村和就)。「国内の水問題と国際貢献の問題が混在している。また、50年程度のスパンと100年以上の長期のスパンの視点でも議論が混在している。これら

行動チームの活動状況として水科学技術基本計画画

略チームによる「水分野におけるこれからの科学技術研究開発推進の方向について」の中間とりまとめが報告された。同チームは関係9省庁と学識者等をメンバーとするチーム。報告では重要な研究開発課題として、特に「安全・安心な水管理・水供給・水処理に向けた流域管理技術の高度化」「水災害リスク軽減に向けたシミュレーション技

術・予測技術の精緻化」を挙げた。新たに登録した行動チームが紹介され、担当者が行動内容や課題を説明した。新登録したチームは次の通り。

▽汚水(生活排水)オンサイト処理システム普及▽水の安全性向上国際プログラム▽水のリデザインによる地方再生▽湖沼、ダム、物質循環

今年3月で東京大学を退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

退官した大垣眞一郎教授、門下生をはじめ水道関の退職記念講演会(最終講義)が7月18日、東京大学本郷キャンパス武田ホールで開かれた。大垣教授は定年より1年早く東大を退職し、4月1日から独立行政法人国立環境研究所理事長に就任し、博士課程を修了した年

環境工学と私的40年



大垣眞一郎教授が退職記念講演

国立環境研究所の前身、国立公害研究所が発足。奇しくも大学教員生活の歩みが同研究所との巡り合わせと一致している。修土・博士論文は「固液混相流に関する研究」。濁った水の方が、ダムの雪融け水のようにたくさん流れるというもの。初の国際会議での発表は「順序統計による河川水質評価」。初の英語論文は「河川自浄作用解析のための実験的研究」で、連続攪拌槽における河川付着微生物膜の増殖を研究した。これらの研究のあと、大垣教授は、自らの研究業績を振り返りながら、環境工学を「人間が人間らしく生活を送れる社会を築くためのもの」と、この日のテーマでもある「自然・社会と対話する工学」都市環境工学を説いた。講演後、東大名譽教授の称号授与があり、花束が贈呈された。